

## 石膏ボードよ、ありがたうっ！

「壁に穴が開きました。」

これだけ聞くと「北中は大丈夫か」と心配する方がいらっしやるかもしれませんが。しかし、実際は「壁に穴が開いて、生徒が助かりました」というべき状況でした。壁が生徒の代わりになってくれたのです。

急いで授業に行こうとしていた生徒が、勢い余って壁にぶつかりました。その結果、身体の一部が壁に当たって穴が開きました。当たったところは石膏（せっこう）ボードの部分です。強い力が加われれば、簡単に割れてしまうものです。校舎内にはコンクリートの壁もありますので、そこにぶつからなくて本当によかったと思います。

本人は大きなショックを受けていると聞きました。そうでしょうね。故意ではないとはいえ、二年もたたない校舎の壁に穴が開いてしまったのですから。でも、学校を管理している私には、ショックを感じてくれるだけで十分でした。傷んだのが生徒の体ではなく、壁だったことにホッとしました。

過去にぶつかった相手が悪く、大けがをしてしまった生徒が二人いました。

一人は、生徒玄関の扉の大きなガラスに突っ込んだ生徒です。鬼ごっこに夢中になり、追いかけられた生徒がドアを閉めたので、追いかけていた生徒がそこに突っ込んだのです。ガラスは当然割れ、上半身がドアの向こう側に抜けました。

ガラスってその後が怖いのです。割れたガラスはドア枠にくっ付いたままで落ちません。体の周囲にナイフが突きつけられたのと同じです。その生徒は運よく倒れず抜け出せなかったので、奇跡的に軽傷で済みました。ガラスに突き刺さった中学生……今でも思い出すとぞっとします。

もう一人は、梅雨の時期に廊下を走っていて、濡れた床で滑って、顔を壁に強く打ち付けた生徒です。梅雨の時期は結露がひどく、生徒たちに再三再四注意を促していました。その矢先の出来事でした。

その生徒は鼻骨を骨折しました。腕や脚の骨折とは違い、手術のときには、鼻から金属の棒を入れて強制するそうです。それを聞くだけで、痛さが想像できますね。顔をしかめたくなくなってしまう。実際もすごく痛かったそうで、彼は「二度と走りません」と強く誓っていました。

過去のこんな怖い思いや痛い思いをした生徒たちを知っていますので、今回のことは本当に不幸中の幸いだったと私は思います。石膏ボードが犠牲になってくれたおかげで、その生徒は無事だったのですから。「石膏ボードよ、ありがたう！」と心から言いたい気もちです。

（十二月二十一日 記）